

1. 目標

【現状】

- 県管理道路延長約3,000kmの内、約1,600kmの延長で歩道が整備されておらず、歩行者が安心して通行できる環境が十分に整備されているとは言えない状況。
- 県内の事故発生件数および死傷者数は近年減少傾向にあるものの、事故に巻き込まれる高齢者の比率が年々増加しており、一層の事故抑制が求められている。

【目標】

- 赤ちゃんから長寿の方まで、すべての人が安心して楽しくとおれる道路空間を形成し、安全安心な地域づくりを行うため、通学路などの歩行空間を整備するとともに、事故危険箇所等の解消を図る。



▲歩行空間がない道路



▲カーブ区間に接続する危険な交差点

計画の成果目標	H30	R04
通行の安全度※1	47.8%	48.3%

※1 通行の安全度

(通行の安全度) = (歩道等整備済延長) ÷ (県管理道路延長)

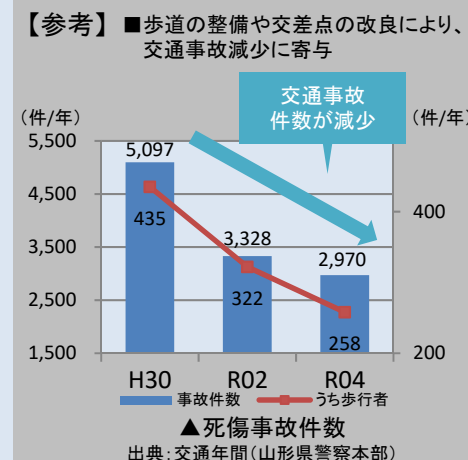
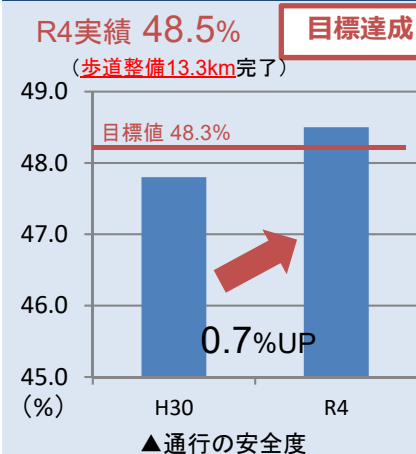
2. 事業の内容

- 事業の期間:平成30年度～令和4年度(5年間)
- 事業の主な内容
 - 基幹事業 : 歩道の設置、交差点の改良等
 - 関連事業 : 該当なし
 - 効果促進事業 : 防犯灯設置等
- 事業実施主体 : 1県8市5町
- 全体事業費 : 4,635百万円

3. 事業による成果

- ◆基幹事業 県事業8箇所のうち8箇所完了 ※事例①②
- ◆関連事業 該当なし
- ◆効果促進事業 該当なし

通行の安全度



4. 評価と今後の対応

歩道整備、事故対策、交差点改良などの交通安全対策を着実に推進し、通行の安全性を向上させた。また、交通事故件数の減少に寄与することができた。

近年、高齢者や未就学児童の事故が多数見受けられることから、交通安全対策について、関係機関と連携しながら、引き続き安全な地域づくりに努めていく。

5. 整備効果事例

【事例①】 歩道・自転車通行空間の設置

2-A002 主要地方道 白石上山線 永野工区

(山形県事業)



➤道路幅員も狭く、歩道も無い危険な状態

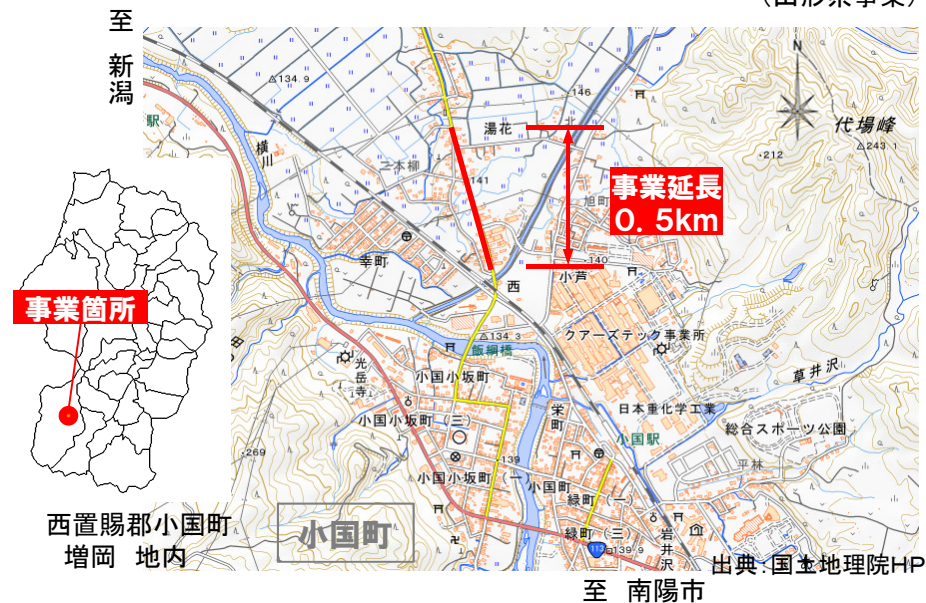


➤道路拡幅により車両走行性の向上、平坦な路肩により自転車走行の快適性の向上、歩道整備により歩行者の安全を確保

【事例②】 視距改良・歩道設置

2-A007 一般県道 五味沢小国線 増岡工区

(山形県事業)



➤見通しが悪く、また道路幅員が狭いため、車両が対向車線にはみ出す危険な状態



➤道路拡幅(視距改良)および歩道整備により、車両および歩行者の安全を確保するとともに、流雪溝を整備して沿道の生活環境を改善